



すずしろ

～開拓・発展・完成～

12月 第8号

令和6年12月25日

開進第四中学校だより

校長 田邊克宣

12月らしい寒さが続き、つい一月前の小春日和を懐かしく思い出します。

今年一年もまた、いろいろなことがあり、月一回の朝礼で諸々の事柄について話をしてきました。今、生徒たちに、印象に残った話題を聞くと、戦争、環境問題、地球温暖化、プラスチックゴミ、手話、デフリンピック、本の紹介等々、皆違った答えが返ってきます。一人一人の問題意識や、それぞれの個性も含め、開四中生の多様性が感じられ、うれしく思います。

さて、先月の朝礼講話のテーマは「自分にできること」としました。

練馬区で、給食の牛乳が瓶から紙パックに替わってから6年間、私自身がプラスチックストローを使っていないことは、すでに先々月、10月の朝礼で伝えたところです。たった0.3グラムの環境保全運動。それを受けて、11月の朝礼では、自分も使っていないという生徒が7人、手を上げてくれました。その後さらに増えているようです。何事につけ共通することですが、環境問題においても、机上の空論でなく、まず実践することが大切です。それが、「自分にできること」です。開四中でも、少しずつ、しかし確実に、実践の輪が広がっていくことを期待しています。

そして今日、終業式では、「自分にしかできないこと」について話をしました。

それは何も特別なことではありません。この一年を振り返って、運動会でクラスの皆で団結したこと、合唱コンクールで情感豊かに歌い上げたこと、マラソン大会で最後まで頑張り通そうとしたこと、その一つ一つが自分自身の取組、つまり、代わりがない、自分にしかできないことなのです。そうした取組を一つ一つ積み重ね、1年生は、だいぶ中学生らしくなってきました。2年生は、学校を引っ張る立場として責任を果たしています。そして3年生は、それこそ誰も代わってくれない、自分自身の進路に向けての道を、一人一人全員が踏みしめているところです。最後まで、頑張ってください。

一人一人が、そこにいる。

それが、「自分にしかできないこと」です。

あと1週間で今年も終わります。決して代わりなどいない、自分を大切に、来たるべき新年を迎え、そしてまた元気に3学期の始業式で会うことを楽しみにしています。

保護者、地域の皆様には、この一年、本校の教育活動に深いご理解と大きな支援をいただき、心より感謝申し上げます。皆さま健やかに、どうぞよい年をお迎えください。